

○令和4年度 教育事業

「 森と火山のミステリーツアー～謎解きゲームで十勝岳のジオを学ぶ 」

(R4.9.10 (土) ~11 (日))



◆目的

十勝岳周辺の、自然と地質の観察や体験活動を通して、人や自然が共生する姿について学ぶ機会とする。

◆参加実績 (定員 30名)

参加 25名

- ・小学4年生 16名
- ・小学5年生 4名
- ・小学6年生 1名
- ・中学1年生 1名
- ・中学2年生 3名

◆プログラム

- ① アイスブレイク・・・(90分)  
体を使った遊びを通して、参加者同士と職員との緊張感を解消し、話しやすい雰囲気をつくった。一人一台のトイカメラを渡して使い方の確認を行った。2日間を通して考えてほしい課題として「十勝岳周辺の自然はどんな自然?」という課題を提示した。
- ② 大雪の森を探検 Rich forest by hike・・・(210分)  
小松原森林コースを歩く際の課題として「小松原の森はどんな森?」という課題を提示した。玄関前で講師の紹介を行い、小松原森林コースを歩きながらポイントごとに講師の解説を聞き、参加者自身が気になったものの写真を撮影した。  
活動後、研修室で自分の撮影した写真を見ながら「小松原の森にはどんな特徴があるか」「自分の住んでいる地域とどんな違いがあるか」「小松原の森はどんな森といえるか」を考え、ワークシートにまとめた。
- ③ 炎と音楽の祭り Fire&Music・・・(60分)  
キャンプファイヤーの周りで講師からアイヌの話を聞き、歌を聞かしてもらったあとに、参加者全員で歌った。また、アイヌの力比べの遊びをし、男の踊りを見せてもらった後、全員で火を囲み簡単な踊りを踊った。



④ 大地のヒミツを発見 Discover the ground made from Mt. Tokati . . . . . (240分 (昼食含む))

マグマ越えコースを歩く際の課題として「十勝岳周辺の地面はどんな地面？」という課題を提示した。玄関前で講師の紹介を行い、マグマ越えコースを歩きながらポイントごとに講師の解説を聞き、参加者自身が気になったものの写真を撮影した。

活動後、研修室で自分の撮影した写真を見ながら「十勝岳周辺の地面にはどんな特徴があるか」「自分の住んでいる地域とどんな違いがあるか」「十勝岳周辺の地面はどんな地面といえるか」を考え、ワークシートにまとめた。



⑤ 振返り . . . . . (90分)

写真やワークシートを見返しながら2日間学んだ周辺の自然の特徴を絵で表し、十勝岳周辺の自然はどんな自然なのか、グループ内で説明し合った。数人を指名して、全体で共有した。



◆事業運営・企画のポイント

○昨年度作成した「大雪の森ジオマップ」をもとに、指導内容を整理し、それを活用した事業を行った。

○実際にコースを歩くことで、参加者の体験的な学びとなるように、プログラムの組立てや参加者への問いかけ方を工夫した。

○参加者自身が歩いて感じたことや興味を持ったことを記録に残すために、一人一台のトイカメラを配布した。これにより、施設に戻った後も写真を見返して思い出したり、写真を提示しながらグループ内で振り返りを行ったりすることができた。

○自分の住んでいる地域と比較して考えることで、十勝岳周辺の特徴をわかりやすくし、自分の住んでいる地域についても関心を持つことができるようにした。



◆参加者の声

□火山はもう噴火しないと思っていたけどまた噴火をするかもしれないということを学んだ。

□十勝岳周辺の自然について知ることができた。(どのように、どこまで噴火したなど)

□森にはどのような動物がいるかを学んだ。

□アイヌの歌などいろいろなことを学んだ。

□いろいろな地形や自然とふれあって森と火山のことをもっとよく知ることができた。

◆事業の成果

① 募集人数を上回る申込みがあった。

② ジオマップハイキングだけでなく、カメラを使用した交流や、アイヌに伝わる民話や踊りなど、多様なプログラムを取り入れることで、参加者が興味をもって主体的に活動していた。

③ 十勝岳周辺の森林について、体験を通して楽しく学ぶことができた。振返りの時間も十分にとることができ、参加者の学びが深まった。

④ 参加者の学びの欄に「長い時間かけてつくられた大地がどれだけ大事か分かった」などの記載があり、ねらいとしていたことが概ね達成された。

⑤ 学校団体に提供するにあたり、様々な講師からの助言をもらうことで、どのような点を改善、修正していけばよいかについての知見が得られた。